

2021年8月31日（火）

老球の細道628号

8月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

毎年のように日本中どこかで起こる豪雨災害。世論の反対にあいながら開催された東京オリパラ。日本選手の大活躍と併行して新型コロナ感染者の急増と医療崩壊。そして、締めはアフガニスタン情勢。世の中の変遷に無力感を感じながら孫の夏休みの相手をしたが、虫取、水遊び、工作宿題などで指導力を発揮できず、これまた無力感を感じた8月だった。

1 読書から

◆「教場は神聖である。教師が教壇に立って業を授けるのは、侍が物の具に身を固めて戦場に臨むようなものである」〈夏目漱石『野分』集英社：漱石文学全集〉：メジャーな作品でないところに新たな発見がある。世の中の安易な風潮に流されないでわが道を行く元教師の姿が記されている。指導者は忙しさに負けないで日々周到な準備が必要である。

2・新聞から

◆「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」〈朝日：天声人語〉：現在開催中のパラリンピックは、元々は第二次世界大戦で負傷した軍人のリハビリとして英国の病院で行われていたスポーツ活動がルーツになっている。突き指だけで練習すべてを休んでしまう選手に対して、ケガしていない部分を休ませない意識がこの言葉にある。

◆「いい選手を集めるのではなく、ジャパンに熱い思いを持った、いいチームを作る」〈朝日：野球日本代表監督・稲葉篤紀〉：国体選抜チームを編成する時の選手選考基準も同じ。「単に選ばれているから参加しているのか」「日本一になりたいと本気で思っているのか」。パッション、ミッション、アクションを持っている選手だけで相当なチームはできる。

◆「特別な記録。開幕前から全員が成長してくれた。スーパースターはいないけど、スーパーチームですよ」〈朝日：バスケット日本女子代表H・Cトム・ホーバス〉：日本中のどんなレベルのチームに対しても理想的な目標となった。バスケットボールはチームスポーツである。個で勝てなければチームで勝てばよい。タレントがいなければスーパーチームに。

◆「今日は昨日の自分より強くなる。今日の自分より、明日は強くなる。ライバルは一日前の自分」〈朝日：車いすテニス・国枝慎吾〉：国枝氏は9歳のとき背中の中核で生涯車いすの生活に。退院後自宅にバスケットボールリングを設置してバスケットに夢中になったという。現在の世界ランク1位のパフォーマンスは車いすバスケットボールがベースになっている。

◆「一人の人間の一日には、必ず一人、『その日の天使』がついている」〈朝日：折々のことば・中島らも〉：変化のないふんづまりの毎日の中にも、日々刺激を与えてくれる登場人物が現れる。励まされたり、批判されたり、褒められたり等。焼酎にも「天使の誘惑」が。

◆「この講義聴くを終わりに出てゆくと別れ言う学徒わが顔見詰む（窪田空穂）」〈朝日：うたをよむ・学徒出陣と教師〉：8月は毎年太平洋戦争を意識させられる。学徒出陣で自分の生徒を戦争に送り出す教師の無力感と悲しみの歌である。あの時代に生きていたら・・・。